

新年

西条市長 伊藤宏太郎



新年明けましておめでとうございます。

謹んで初春の御祝詞を申し上げますとともに、皆様の御健勝と限りない御清福を、心からお祈り申し上げます。

さて、年頭にあたり、改めて旧年を顧みますと、国内におきましては、アスベスト禍や建築物の耐震偽装問題など、多くの人命を脅かした事件や人災が相次ぎまして、安全確保や危機管理のあり方が、改めて問い直された年でありました。

しかしながら、一方におきましては、好調な海外需要と併せて、官民を挙げての改革努力により、企業業績や個人消費が大幅に改善しまして、日本経済は景気の「踊り場」を脱却し、再生に向けての明るい兆しが見えてきたところであります。

このように我が国全体におきまして、新たな発展への胎動が実感される中、一昨年十一月の合併により誕生した本市も、はや一年の年輪を重ねることとなりました。

本市が誕生してから今日までの間に、皆様の力強い御支援によりまして、地域住民の「融和」と「一体感」の醸成、さらには、災害復旧や新しいまちづくりも着実に進展していることを強く実感いたしております。

こうした中、いわゆる「三位一体の改革」の具体化や「平成の大合併」の進展に伴いまして、我が国の地方自治の態様も、これまでの「地方分権」から、自立した地域が自らの経営主体となる「地域主権」へと移行しつつあります。

今まさに、地方自治体が自己責任の原則において、自らの知恵と工夫をもって地域づくりを進め、「自立と自活」を実現していくことが、より一層強く求められる時代が到来しています。

そのような時代の流れは、本市にも容赦なく押し寄せていますが、六千億円を超える四国随一の製造品出荷額や、突出した食料生産力を誇る複合農業地帯といった、重厚な産業基盤等を包括する本市の「総合力」をもってすれば、地域の「元気情報」だけでなく、真の「自立と自活」を実現した都市の姿を全国に向けて発信していくことも、十二分に可能であると確信しております。

こうした戦略的思考を確固たるものとしまして、今後におきましても、引き続き地域住民の「融和」と「一体感」の醸成、さらには、地域の均衡ある発展を精力的に推進しまして、「人がつどい、まちが輝く、快適環境実感都市」の一日も早い実現に邁進して参る所存であります。

本年もどうかこの上ながらの御支援をお願いし、皆様の益々の御多幸をお祈り申し上げます、年頭のごあいさつといたします。

平成十八年元旦